

2007年(平成19年)12月11日
「光陰矢の如し」、今年もあと僅かになりました。この前、道場内の飲み会の時、ワイワイやりながら誰かが言っていました、若い頃と比べると過ぎていく時間の早さの感じが、七倍も早いそうです。

国内外での一年間の出来事などは年末の新聞やニュースを各人ご覧になるとして、来年は当合気道も平成十一年以来九年振りに会の名称が以前と同じになり、再びというか、これからも本道の道を求めてはるかなる修行が続くものと思います。
長崎北道場も会員が丸となって前に進んでいきましよう、ちょうど干支も一丁の干支の一番初めであるネズミ年です、心機一転して。

この師走の一時、あらためて今年後半の半年を振り返ってみたいと思います。

八月一日、西北岩屋ふれあいセンターで約二年ぶりとなる室内でのはんかち落しなどのゲームや子ども向けビデオの上映会を兼ねたソーマン大会を行い、大人と子ども会員及びその家族合せて二十五名が参加して盛会でした。
ソーマンも、料理名人の太平洋さんの指導のもと、会員やお母さんが協力してくれて、いい茹で具合でした。満腹！
十月十四日には第十回市民レクリエーション祭りが開催され、合気道の部も諏訪体育館柔道場で盛大に開催されました。多良見道場、

正龍館道場それに氣和会とともに賛助演武として北道場からも三組が参加し、日頃の稽古の成果を披露することができました。瀧田七段投げ、吉田四段投げの自由技、野瀬六段投げ、森脇初段受けの武器技、それに副島君と永田君の自由技でした。

特に副島君と永田君はお互い同士での稽古時間があまりない中、中学生らしいはつらつとした演技内容でした。また、個人名は省略させていただきますが、小島さんをはじめ多数北道場の面々が見学に来てくれており、この辺が北道場のまとまりの良さではと、感じました。
十一月四日の日曜日、そもそもちょっとした演武大会を二ヶ月に一回道場内で開催し、す

っかり北道場名物として定着していますが、今回はちょうど五年前の七月十三日に産声を上げて発足した北道場の満五周年演武大会と名うって、いつもの大人中心の組み合わせに、幼年部も一緒になって開催しました。

今年の夏の異常なまでの猛暑などの影響もあつて、幼年部会員の体調管理の面などでなかなか無理がでずに、時間的な余裕がない中で、村里五段が実行委員長としてうまく全員をまとめてくれて、無事に怪我人もなく終了することができました。

十二月一日は、行事ではないのですが、一年の楽しい忘年会。今年には幹事の若杉五段の手配で長崎駅前近くの「炉暖」で開催し、十

七名の方が参加しました。アルコールが回るにつれて皆さん多弁になり、合気道に対する思いとか、公私のことなど日頃あまりゆつくり話す機会が少ないことなどについて、話題満載でした。

また、居合道の忘年会終了後、かつての会員であつた寺井さんも、村里さんと同行して会場に顔を出してくれました。昇段関係では、小島・森脇兩名がそれぞれ二段に昇段が内定、また他の流派時代から通算すると合気道歴がかなり長い丹野さんも晴れて初段となりました。皆さんおめでとございます。これから私も私とも忙しいですが、稽古に精進して下さい。また、級の人も黒帯目指

して頑張ってください。

「無抵抗主義」について

一般的に無抵抗とは、相手がかかってきても抵抗しないこととして受けとめられ、それはちょうど「ぬかに釘」「暖簾に腕押し」とか、やる気のないイメージにとらわれ、社会を生き抜くために「無抵抗」ということはマイナスイキ

社会においては、相手と争わないと生きていけない部分も時にはある。また、そうしたことがないと身を滅ぼすことだってある。したがって人は、相手に負けないような実力及び気力を身につけるために必死でがんばっているのである。

また、スポーツや武道は常に相手がいるのであって、その相手に勝ってはじめて自分の実力が評価さ

れる。

今や時代は、「勝てば官軍、負ければ賊軍」という認識の中、合気道は「相手と争わない」武道であるということを前面に掲げ、そのことを稽古及び教えでも、相手とぶつからないことであるという「無抵抗」の武道であることが、今の現実社会に逆行すると思われることがある。

このことの真髄が理解できるまでには相当の歳月がかかるという事は、合気道の修練をかなり重ねてきた者にしかわからない。

入門時はとにかく強くなりたいたいという考えが強く、人と喧嘩しても負けないくらいの実力を身につけたいという願望がある。このことは、だれでもありえるのであって別に否定できないし、やがて自身がある程度合気道の

技などについて分かってきた段階で、この無抵抗の真の意味が理解できるかも知れない。

したがって、最初はだれでも思う存分稽古をし、実力を身につけることが大切と思う。

また逆に、それを充分に受けとめることができるような指導者が必要であり、また、そうした指導者こそがこれから求められているものである。

さらに、技の実力だけでなく砂泊先生の教えを忠実に守る精神的な要素も兼ね備えていなければならぬ。

何故なら、そうした精神がなかったら全然違った方向へ行き、合気道そのものが先生の教えを離れ、全く異なった方向へと発展する可能性がある。無抵抗という言葉は、他の武道にもあると思われる

が、教え自体を言葉として、また本においても重要なこととしてかなり教えられているのは、合気道だけかもしれない。

「合気道で悟る」の本の中に「合気道は無抵抗主義である。無抵抗なるが故に、はじめから勝っているのだ。邪気ある人間、争う心のある人間は、最初から負けているのだ」ということが掲げられている。

このことは非常に難しく、凡人である我々には、これを表現することは至難の技としか言いようがあるまい。

努力して、一歩でも近づくことができるよう自己研鑽をすることである。無抵抗とは、気力・体力が身体の奥深くに充実し、しかもそれが相手よりも勝っているため、相手が踏み込めないことを意味することなのかもしれない。

ややもすると相手に勝つことだけが優先する今日、その中において「無抵抗」を唱えるのは非常に難しい面もあるが、しかし、その奥に隠された真の意味を理解するために日々努力していかなければならない。

(平成十七年二月瀨田) お知らせ等

稽古初めは、一月十二日の土曜日。暮れは十二月二十三日が稽古納めでその間がやや長いかも知れませんが、借りている岩屋中学校も冬休みでありそれに合せました。

また日頃ゆつくり取れない家庭でのくつろぎの時間、これも稽古と同様に大切であると考え、そのようにしましたので、ご了承下さい。では、皆さんいいお年を！